



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行 人
カトリック福岡司教区
編集人 森山信三
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

6月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般】人間らしい生活の尊重
【宣教】アジアの教会
【日本の教会】司祭の聖化

司祭評議会 司祭年を振り返り継承への提案も

18人が出席して開催された今回の司祭評議会は、本年2月の臨時司教総会で諮問を受けている「今後の日本の教会の方向性や福音宣教のあり方」への福岡教区としての答申の出し方について、また、

5月11日（火）、今年度第二回目の司祭評議会が司教館にて開催された。

第1回福音宣教推進全国会議（1987年）から23年が経ち、日本の社会も教会も大きく変わり、新しい状況が展開している。そこで日本カトリック司教団は、今後の日本の教会の方向性を確認し、今後の福音宣教のあり方について検討するために広く信者の意見を求めたい意向を表明した。

これを受けて福岡教区では、

司祭年閉幕ミサ 6月11日
時：6月11日（金） 10：30
場所：カテドラル大名町教会
* 川添猛神父様（帯山教会主任）の講話に
続き 11時からミサが捧げられます。



昨年度、福岡地区信徒協の広報部会が設置され、信徒の広報活動としての可能性などを数回の会合を重ねながら検討してきた。その中で「世界広報の日」に因む企画を、教区広報委員会と主催すること



5月23日（日）カテドラルで開催された講演会で千葉監督が伝えたマザーテレサは、一番新しい祈りの人、神の愛を生きた人、福音宣教者の手引きとして参加者に伝えられたのではないだろうか。

千葉茂樹監督を迎えて『マザーテレサに学ぶ』愛は行動です。いのちに寄り添ってください

5月23日（日）、カテドラル1階講堂には、久々の雨天の中を福岡教区の各地から260余人が集まった。

「マザーを語ることは、神を語ることになる」と話し出した千葉さんは1997年9月5日、マザーが突然迎えた死の時の最後の言葉は「神よ、愛します」という言葉を3回

るいは小教区において主日のミサの参加者の減少、また名簿上の信徒数と、現実には教会活動をしておられる信徒の数との開きをどのようにしていくかなど、即座に解決できる問題ではないが、今後、宣教師の観点から司教団で共有していくべきことが確認された。

その他、聖体奉仕者実行委員会より、研修会開催に向けて準備中であること、また神学院から2011年度、入試の申込み締切りは、6月末であること等の報告がなされた。

また、「簡単に覚えられ5つの言葉を覚えてください『You did it to me.』と、マタイの25章の「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことにならる」を、マザーは何処でも、誰にでも、いつも話していらしたなど、マザーと直接話したり、関わりたりした中で、聞いたこと、見たことをユーモアをまじえながら語る言葉は宣教師の姿を彷彿とさせるものだった。何回かの取材で「マザーの生き方にとらわれて洗礼を受けました」ともいうメディア人の千葉さんが語る、言葉や映像からは過去のマザーではなく、今生きているマザーが伝わってくる。例えば「人間にとつて最も幸せなことは、第1に与えられる幸せ、第2に何でも出来るようになる幸せ、第3に与える

いわれたと、倒れこんだマザーを寝室へ運んだシスターからうかがったことを伝えたい、と語った。

昨年、「暮らしの手帖」が修道院取材し、「シスターのいちにち」という記事を書きましたが、反響がありました。様々な応答が全国から寄せられ、若い人々の琴線に触れました。

彼らには夢がない、実行力がない、忍耐がないと言われます。しかし、若者たちが置かれた状況を聞きますと、彼らへの共感だけが残ります。自分を取り巻く社会の仕組みに傷つき、家庭崩壊に苦しみ、仕事に疲れ果てています。これで結婚に夢を持ち、仕事に生きがいを感じ、創



造性を持つことが出来るでしょうか。しかも、親の世代が懸命に追い求めたものが何をもたらしたか本能的に、経験的に分かっています。そこで、結婚するでもなく、仕事に打ち込むわけでもなく、人生に目標がないのかのような若者が多い時代となりました。こうした現象を見て、ある経験豊かな人が「日本は滅びますよ」とわたしに予言しました。そうかもしれない。戦後の死力を尽くしての復興の努力を知る人が、今の若者の次に、世代が続くことさえ期待出来ないのも無理からぬことでしょう。寄せられた通信のほとんどは教会外の人々からでした。その人々は、苦しい状況の中から「どうすれば苦しむ人々の苦しみを和らげ、人

神のなさるみ業、働きに協力することです。また祈りには3つの気づきが必要。第1に私が今日あることに感謝、第2は自分に欠けているものに気づく、第3に自分の可能性に気づく、そのために祈るのです」と。

このような千葉さんのお話によつて、キリスト者とは誰か、神様から創られた人間のあり方、その使命とは何か、を一同問いかけられた。私たちは、小教区の信徒として、修道者としてあるいは聖職者として教会の中で奉仕しているのだが、その目的は何なのか。単に組織や制度を維持し、整えるただに奉仕しているわけではない。あくまでキリストを伝えること、神の愛を運ぶことである。

マザーは「死を待つ人の家」に運ばれてくる人々にまず宗教を尋ねた。それは、それぞれの宗教の作法に従って、葬るためであった。彼女は、修道会を発展させようとしたり、カトリック信徒の数を増

やそうともしなかった。しかし、結果的にどんな神を信じる人をも取り込み、神の愛の中に包まれた。

その意味でまさに宗教の壁や枠を超えた人物だった。同時に、講演の中で紹介された「わたしは一日に2回聖体拝領します」という言葉に表れているとおり、カトリック教会の修道者に徹した人でもあった。現代は、メディアが多様化し、一個人対大衆という構図があるが、マザーは決してそのような方法をとらず、いつも自分と貧しい人という1対1の関係を大切にしていた。その姿を見た人々が、マザーを伝え、彼女の活動に賛同して入会し、ボランティアとして協力し、彼女が大切にしていた個々の関りが世界的に広がった。このようなことを考えるとき、今回の千葉さんの言葉は、私たちの日常及び置かれた場で福音を伝え、生きることがキリスト者一人ひとりにとつて自然なこととして心に染み渡るものであった。

「寡黙なる巨人」という書物を読んだ。著者の多田富雄さんは世界的な免疫学者だが、脳梗塞を発症し、身体障害を始めとして、あらゆる障害を抱えることとなり、一夜にして一級の障害者となる。彼は言う「手足の麻痺は神経細胞による死によるもので、それは再生しない。もし機能が回復するのなら、それは新たに創り出されるものだ。もし私が一步を踏み出すとしたら、それは失われた私の足を借りて何かが歩き始めるのだ。そいつに会ってやろう。私は新しく生まれるものに期待と希望を持った」と

▲氏は自分の中に胎動し始めた何者かを「巨人」と呼ぶ。その「巨人」とは、目には見えないけれども私たちを突き動かしている大きな力のことであろう。それは、私たちにとつて悪魔的なものでもあり得るだろうし、逆に人を神のものへと導くエネルギーともなろう。一日にして地獄を見た人が、同時に「巨人」にも出会うことになって、その力で彼は、それ以降与えられた生を全うすることになる▲この巨人は、エゼキエル書（37章）の中で、枯れた骨に向かつて「生きよ」と吹きつけた神の息吹ではなかったか。神の息吹は何もキリスト者だけに与えられるものではない。特に苦難の中にある人々の中にこそ、愛の霊、慰め主は来られるのではないか。氏はこんな言葉も遺している。「生きていくというのは、体の中に死を育てている」ことだと。しかし同時に上からの恵みによつて生命への希望も育まれているのである。「すべての人に命と息を与えてくださったのはこの神です」（使徒17・25）。

に役立つ者になれるか」と悩んでいました。今までに若者がこのようなことに悩む時代があったのでしょうか？ 彼らはいわば、他者の苦しみを負うことを望んでいるのです。手にしたのほんの一部の人たちからのものです。しかし、時のしるしではあります。葉が落ちるのは枯れるためではなく、新しい芽が出るためです。神が若者の心をこのように目覚めさせておられるのは、古いものが死滅し、新しく本能的なものを生むためかもしれません。少なくともその可能性に向けて私たちの努力から神は何かを創造されるのではないのでしょうか。



パスカルのことば

森山 敬三

「人間は一茎の葦にすぎない。自然のうちで最も弱いものである。だが、それは考える葦である。彼を押し潰すには、全宇宙が武装するには及ばない。一吹き蒸気、一滴の水が、彼を殺すに充分である。しかし宇宙が彼を押し潰しても、人間は彼を殺すよりもなお一層高貴であろう。」

なぜかといえば、彼は自己の死ぬことと宇宙が彼を超えていることを知っているが、宇宙はそれについて何も知らないからである。そうだとすれば、我々のあらゆる尊厳は思考の中に在する。それによつて我々も自己を高めないければならない。我々が拡充することのできない空間や時間によつてではない。だから、よく思考するように努めよう。これこそ道德の本源である（パンセ347）。

問題は人間を葦としている

ルカによる、タボル山での、イエスの変容の物語について、



「タボル山でのイエスの変容」 (ルカ 9、28-36)

少し考えたいと思います。

この出来事は日常を超えて

ことである。葦については、マタイ11章にある、イザヤ書の42章にある、「また傷ついた葦を折ることなく」。

その他にも福音書には葦についてしばしば語られている。メシア預言と洗礼者ヨハネの出会い「あなた方は何を見に荒野に出てきたのか、風に揺らぐ葦であるか」に見え、ピラトの兵士よりの受難、右の手には葦の棒を持たせ、その棒を取り上げて、その頭をたたいた。また十字架の最後に「海綿に酸いぶどう酒を含ませた葦の棒をイエスに飲ませようとした」このことから、葦は単に人間を表すだけではなく、キリストを匂わせていることを知る。

パスカルは三つの秩序のことを言う。「身体から精神への無限の距離は、精神から愛への限りなく一層に無限の距離を象徴する。なぜなら愛は超自然だから」（同793）。思考の大切さをどんなに説いても、愛がなければ無に等しい。パスカルが吟味しつつ求めなければならないと言ったのはそのことである（同421）。どんな人間のいとなみも、それがなければ気晴らしである。「真の善を求め、その甲斐なく、疲労困憊

います。

当時の律法ほどではなくても、ある程度の枠や決まりがあれば、私たちの生活や人間関係はもつと楽でしょう。

決められたとおりにしていればそれで安心、誰からも咎められることもなく、もつと要求されることもないのですから。ところが、イエスはそういうことを超えます。この物語の中でのイエスはいつも違うのです。ペトロたちの手が届きません。イエスがあまりにも偉大でびっくりし、慌ててしまいました。光り輝くイエスを見て、ペトロは考える余裕もないまま、イエスを

するのは、よいことである。結局、救い主にその手を差し伸べることになるだろうから」（同422）。

大名町教会信徒

わたしとキリスト教

参加して

安部 智也

ふとキリスト教に興味を覚えていろいろ調べ始めたのが3年前の春。信者になるにはどうしたらいいのか、信者になるとどうなるのかと、いろんな情報を調べ、カトリック大名町教会のHPにたどり着いた時に、キリスト教講座が4月から始まることを知りました。すぐに申し込みの電話をしたのはよかつたが、講座の開始日まで不安で一杯だったことを憶えています。

第1回目が始まる日、人づき合いが下手な私は不安と期待の気持ちで教会へ向かい、キリスト教講座が始まりました。私は早速聖書を用いて勉強するかと思っていました。キリスト教を学ぶ前に人とは何か、愛とは何かということをも1期で学ぶということ話を話されました。

このままずっと自分たちの近くに留めておきたかったので

ましよう。「…仮小屋を三つ建て、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのため」と

言います。

人間の考える枠の中にイエスを入れてしまい安心していたい。私のために、私のイエスは私の作ったテントの中にいてくださる。自分の都合のいい時に、そこへ行けば私だけには必ずイエスに会える。このように身勝手な私の気持ちにペトロは代表してくれたのでしよう。

そこへ、天の父からの声が

天草根引山 神の愛の証しの場



5月16日の主の昇天の祭日、根引山（ねびきやま）において本渡、崎津、大江教会共同で記念ミサを行なった。

地元の人が根引山と呼ぶ場所、天草下島南西部、旧河浦町今富と旧天草町大江と高浜の接点にある。そこに明治20年頃から大正初期にかけて「根引の子部屋」と呼ばれていた孤児院があった。

明治期に天草を担当したパリ外国宣教会の司祭たちは、困窮する人々を助けるため、特に子どもたちを養育するこ



フィリポ・ネリ
渡辺隆義神父

こ天草の本渡に到着したのは3月26日。翌々日に宮原良治司教様による主任司祭就任式を終えて、緊張の中にも希望を胸に自分の教区での生活を再開いたしました。

皆様どうぞよろしく願いいたします。

福岡教区を離れたのは1991年の4月でしたので19年ぶりです。私のような者を寛大に受け入れてくださった宮原司教様と本渡教会の信

とに力を注いだ。孤児院は明治16年、ベルナル・フェリエ神父が今富にあつた空き家を借りて開いたのが始まりとされ後に、根引山に移った。

フェリエ神父の後を受け、ルイ・フレデリック・ガルニエ神父が運営を引き継いだ。経営難に直面しながらも神父は協力者の助けを得ながら子どもたちを養育育てた。孤児院はおそらく明治の終り、もしくは大正の始め頃、その役目を終えたといわれる。

戦後、天草の宣教師司牧はコロンバン会にゆだねられた。かつていのちを育んだ子部屋跡はひっそりと時の流れを刻んでいた。パトリック・ダイヤモンド神父は、この場所を記憶にとどめ、宣教師の愛と労苦を忘れまいと孤児院の跡地に檜や杉の苗木を植え世話をした。そして1986年、2回目の崎津在任中に聖母マリア像を設置した。

その後、長崎教区の川添猛神

司牧の旅から帰って来ました。



フィリポ・ネリ
渡辺隆義神父

徒の皆様感謝の気持ちでいっぱいです。今もって、日本の教会や自分の教区の何がどのように変わったのかよく分かりません。これから少しずつ学ばせていただきます。

アメリカでは海まで10時間、山まで8時間のドライブが必要な小さな町で自然を満喫しながら生活してましたので、人と車と自転車であふれる日本は少しばかり窮屈です。そのうち慣れるのでしようが、別に聴きたくもない音楽や無機質なアナウンスが乗り物やお店の中で繰り返されると正直イライラしてきま

す。でも、近くに海があり、小さな山である天草の地は

父が着任し根引の孤児院のことを知ると、地元の信者たちに呼びかけ、ここに十字架の道行きを整備した。2000年大聖年の1月10日、当時の教区長松永久次郎司教が祝福した。その日信者たちは、根引の檜で造った大十字架を担いで山を登った。

根引の山は、神の愛に心酔して生きた人々のまごころの証しである。毎年、主の昇天と11月にここでミサを行っている。天草の地で神の愛を証しして生きた宣教師、先人たちの思い起こし感謝しつつ祈る。今回はミサの前に十字架の道行きを行った。宮原良治司教、司祭叙階金祝の川添神父をむかえ、長崎から古巣神父も駆けつけ、70人の信者が共に祈った。「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を述べ伝えなさい」という宣教師たちの心を燃やしたキリストのことばを、今度はわたしたちが受け取って生きていくのである。福音を伝えることの大切な意味を思い起こすミサとなった。

私の心身のリハビリのためによさそうです。

アメリカの教会はどうですか、という質問が一番困ります。私は自分に委ねられた小教区の信徒のために働くことで一杯でしたのでアメリカの教会の全体を知らないのです。ただ、私の小さな体験からですが、教区のすべての神父様方に2、3年間、世界のそれぞれ違う国の小教区で司牧体験できる機会が与えられたらいいのになと思います。

最後になりましたが、私はアメリカにいても福岡教区とはこの教区報でつながっていました。歴代の編集長とスタッフの皆さん、ありがとうございました。

本渡教会主任司祭

ちやい息



がん告知笑うといいと医者と言う入院にこころの準備いまひとつ

坂牧春妙
深堀正平

神の前で生と死を考える集い

◆参加者を募集中

第2回 6月5日(土) 17時～6日(日) 15時 (指導：Sr.高木慶子)

第3回 12月11日(土) 17時～12日(日) 15時 (指導：来住英俊神父)

*信徒を対象に「生と死」を『経験』と『カトリックの教え』の両方から考える研修会です。(一日だけの参加もできます)

カトリック福岡黙想の家

カトリック御受難修道会・宗像修道院

811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222・Fax 0940-32-3385

インターネットで検索

福岡黙想の家

検索



PRAYER GROVE
MUNAKATA

ミサ用ワイン



ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA

スイートタイプ (赤) (白)

ご用命 お問い合わせは

有限会社 大楠酒店

ヨハネ 青木 彰

〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号

電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち

草苑

カトリックのご葬儀

互助会制度もご利用できます。

木下株式会社

TEL 092-526-5656

〒810-0016

福岡市中央区平和3丁目1-5

司 祭
シリーズ
⑭

『召命と社会』



マルセル コース神父

1994年、現在『美野島司牧センター』と呼ばれる施設を任されることになりました。それは、私にとって大いなる試練と挑戦の始まりで、その時からすでに16年が経過しています。

美野島に赴任した当初から、法務省管轄下の収容所訪問が私の日課となり、移住労働者たちと過ごすことで、私の生涯は大きく変わりました。

この経験のおかげで、私は進むべき道に神が現れるのを実感できるようになったのです。美野島に赴任した次の年の夏、数人の薬物依存者がやって来て、リハビリ施設『ダルク』設立の場を求めてきました。この時から私は、薬物の依存という未知の世界



床嶋藤吾修道士

新緑の美しい油山のふもと、の施設に床島さんを訪ねました。「おいくつになられましたか」「93歳と8ヶ月です」「どんな毎日をお過ごしですか」「朝7時に起床、教会の祈り（聖務日課）を唱えて、朝食です。週2回はデイケアに通っています。その他はここでナマケモノをしています」といたずらっぽく笑われた。「もつとお祈り

を唱えて、朝食です。週2回はデイケアに通っています。その他はここでナマケモノをしています」といたずらっぽく笑われた。「もつとお祈り

に導かれました。これは神の導き以外のものではありません。時として、神は私たちを予想もしないところへ導くものなのです。『美野島司牧センター』にとつて、ホームレスへの支援も大事な仕事のひとつです。この支援活動には、カトリックだけではなくプロテスタントの方や仏教徒など、様々な人が参加してくれています。人びとへの愛と尊敬をもって貧困を分かち合おうとすることは素晴らしいことです。私は喜びと驚きを禁じ得ないのです。

私が様々な活動をセンターで繰り広げることができるようになったのは、そこに至るまでに長い道のりがあったからです。何と言つても、私は運がよかった。というのも、日本に着いてすぐにJOC（カトリック青年労働者連盟）の司祭たちと出会ったからです。人びとの生活の場から目を向け、彼らの生活の中から具

青少年教育に献身してきた110周年を祝う 熊本信愛女学院



学校法人熊本信愛女学院が創立110周年を迎え5月1日（土）、宮原良治司教を迎えて感謝ミサが、学院体育館で荘厳に行われた。

学校（校長シスター松尾京子）が156人で、同じく高等学校（同校長）が658人の女学生を抱える歴史ある学院である。

当日のミサは、五月晴れの美しい青空が広がり、まるで神の祝福が学院に集う人々に注がれる中で、宮原司教を主司式者として5人の司祭の共同司式で執り行われた。

ミサ後の式典では、修道会日本管区長を始めとして熊本県知事、熊本市長など各界から祝福のメッセージが贈られた。それに応えて学院理事長シスター松尾京子が「創立者の当地における数々の試練」と「それらを切り拓いた深い信仰と聡明な決断力」さらには「生涯をかけて熊本を愛し、青少年の教育にひたすら献身」した偉業を語った。

同学園は、60周年を迎えた熊本信愛女学院幼稚園（園長シスター脇山ミネ子）が園児169人。110周年を迎えた熊本信愛女学院中

基本とする建学の精神が長い伝統の中で受け継がれていることをほめた。ミサの中で読まれた福音「私たちは地の塩、世の光である。」という箇所は本学院が今まで地域社会に貢献してきたことそ

のことで、創立110周年を迎えた今、新たに再出発するに当たり「教育の原点に立ち返り、教職員が一致協力して建学の精神を深め、一人ひとりを大切にしながら、思いやりと優しさ、感謝の心を育て、国際的センスを培い、他人の痛みと共に感じ手を差し出すことのできる女性、知性に富み地域社会に必要とされる女性の育成に全力をつくしたい」との思いを述べた。

第5期熊本地区神学講座始まる



5月16日、第5期の熊本地区神学講座が手取教会を会場に幕を開けた。

テーマは『ミサ』である。閉塞感漂う世情の中で、生き抜く力、希望、喜び、癒しをミサから得たいとの思いが一つになって、このテーマが選ばれた。

通年の申し込みが170名、別にスポット参加が100名を超える勢いで、高い関心を集めている。初日は「イエスの祈り・ミサ」と題して、日本カトリック神学院養成者の白浜満神父の講義。白浜神父はミサを、「いのちを懸けたイエスの祈りである」と表現し、分かり易く、ユーモアたっぷりに語りかけた。ミサの構造の解説では、契約の儀式、食事の儀式、旅の同伴者としてのイエス、そしてイエスの全生涯がミサを通して現れることを説明し、ミサに込められたイエスの思い、智慧の豊かさを「素晴らしいですね」と繰り返しながら話した。

最後に、イエスの願いに合

わけて、一人でも多くの人に救いが及ぶよう日々の十字架を受け止め、生活を伴った感謝を捧げようと受講者に呼びかけ、締めくくった。受講者からは「分かり易かった」、「新鮮だった」などと感想が寄せられた。過去に学んだものが呼び起こされ、新鮮な言葉で理解を促され、新しい視点を感じた。ともに受け止める。そうした作業を受講者がそれぞれ心の中で繰り返しながら、耳を傾けていたようである。

「カトリック教会の特徴、それは神様を食べる宗教です」白浜神父が語ったこのフレーズに、今回のテーマ・イエスの祈りが凝縮されている、印象深い講座となった。次回6月20日（日）、晴佐久昌英神父を迎えて開かれる予定である。

☆イエスの聖テレサ

霊的な人々の母

トマス・アルバレス著

松田 浩一 訳

聖テレサを知るための「入門書」。本書は著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、思想を年代順に総合的に語っている。祈りを通して、神との出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の「自己認識」へ至るためのヒントを与えてくれる。

サンパウロ 発行

税込定価 1155円

☆テレサを愛した人びと

伊従 信子 著

「聖テレサ」の名前を持っている人は非常に多いと言われている。それほど彼女には多くの人が愛されているのです。テレサが愛した人びと、テレサを愛した多くの人々の中から著者はとくに11人を取り上げ本書で紹介しています。特に、テレサを愛した人々のこころの奥深くにあるともしびに、神の愛を点火したテレサの霊性に触れながら、その人々と聖テレサとのかかわりを魅力的に紹介しています。

女子パウロ会 発行

税込定価 1470円

司祭召命の育成！

カトリック教会のカテキズム

日時：2010年6月27日（日）15：00
場所：カテドラル大名町教会
講師：櫻井尚明神父（大名町教会主任）
資料：カトリック教会のカテキズム

2010年福岡地区聖書講座

テーマ：聖書とわたし ～生活の中でみことばを活かす
日時：2010年7月11日（日）14：00～16：00
場所：カテドラル大名町教会
講師：瀬下幸弘氏（カトリック黒崎教会信徒）
参加費：500円 旧新約聖書をご持参下さい。
主催：福岡地区信徒使徒職協議会 聖書典部会

2010年北九州地区聖書講座

メインテーマ：いただきます～神のことばを食べる
目的：生きるための力となる「神のことば」をいただきます。
日時：7月25日（日）14：00～16：30
場所：カトリック小倉教会
講師：L. ベリオン 神父（カトリック行橋教会）
主催：北九地区信徒協 聖書部会

熊本地区 第5回 神学講座開講のお知らせ

テーマ：「イエスを知り、イエスに生き、イエスを伝えよう」
＜希望、喜びをもたらすミサ＞
【日時】6月20日（日）13時半～16時半
【内容・講師】神は福音を宣言する 晴佐久昌英 神父
【会場】カトリック手取教会
【受講料】各回1000円（通年5000円）
＊尚、参加希望者は事前に実行委員会にご連絡ください。
【問合せ先】☎096-352-3030（手取教会 岸）
【主催】熊本地区神学講座実行委員会

臨床パストラルケア一日研修会

【日時】6月19日（土）10:00～17:00（受付 9:30）
【内容】病気になっても病人にはなるな！～健康と病気～
【会場】サンパウロ福岡（福岡市中央区赤坂）
【講師】中島保壽（臨床パストラルカウンセラー）
加藤理人（臨床パストラルカウンセラー）
【対象】臨床パストラルケアに関心をお持ちの方
【研修費】一般5000円／会員4500円／学生2500円
【主催】NPO法人臨床パストラルケア教育研究センター
【問合せ先】イエズスの聖心病院：☎096・352・7181 加藤
福岡連絡先：☎092・861・4802 海江田紀子

キリスト教講座開講中

【日時】毎月第1・2・3週の水曜日19時から20時半
毎月第1・2・3週の日曜日10時から11時半
（水曜日と日曜日の内容は、同じテーマです。）
【場所】カトリック大名町教会信徒室
【テーマ】Ⅰ期：自分との出会い（5月第2週から21回）
Ⅱ期：キリストとの出会い（15回）
Ⅲ期：キリスト共同体との出会い（15回）
【参加費】無料
【主催】大名町教会キリスト教講座委員会

青年黙想会

テーマ：聖体 ～その心～
日時：6月26日（土）20時～27日（日）16時
対象：カトリック青年と求道者
同伴：S r. 大田 fdcc 参加費：1500円
申込先：カノッサ会 S r. 大田
☎0944-58-5793
Email:sis.ak@hotmail.co.jp

福岡教区広報室アドレス
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

2010年

案内板

会合と催し

6月のこよみ

福岡黙想の家ご案内 6月

◇12日（土）～13日（日） 黙想の家後援会会員のための黙想
◇13日（日） 黙想の家後援会総会
◇19日（土） 福岡チェナクルム
◇20日（日）～21日（月） 聖マリア在俗会黙想会
◇27日（日） 水巻教会 黙想の家で祈り語り合う集い
◇29日（火）～7月8日（木） 聖母訪問会 黙想会

〒811-4155 福岡県宗像市名残1056

☎0940・32・3222 ㊦32・3385

Email: fmokuso@mvi.biglobe.ne.jp

インターネットで検索 **福岡黙想の家** 検索

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

※祈りの集い

年間テーマ：教父に祈りを学ぶ
・日時：6月10日（木）10時～14時半
・内容：聖アウグスチヌス
・指導者：ダニエレ神父
指導：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）
ダニエレ サルツィ・サルトリ神父
Sr. マリア デ・ジョルジ
問合せ先：真命山諸宗教対話・靈性交流センター
☎0968・85・3100 ㊦0968・85・3186・玉名郡和水町蛸浦
1391-7・E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp
＊個人またはグループでの黙想や研修会も歓迎。（要予約）

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：6月19日、7月3日、7月17日 午前10時～12時
場所：カトリック大名町教会小聖堂
＊基本的に第1・第3土曜日。変更の場合もあります。

福岡

◆聖霊による刷新福岡祈りの集い（日時）毎週月曜11時から12時30分（場所）大名町教会1階（内容）賛美と感謝の祈り・聖書の分かちあい（代表）Br床嶋（問合せ）☎092・521・2503 蓮尾
◆召命祈願ミサ（日時）6月10日（木）19時半（場所）日本カトリック神学院福岡キャンパス聖堂
◆召命を共に祈る会（日時）6月17日（木）14時30分（場所）召命の家指導：浦川務神父（教区召命担当）
◆ザビエル合唱団練習（日時）6月19日（土）13時～16時（場所）カトリック西新教会（問合せ先）事務局 ☎0940・33・5423 橋本
◆在世フランススコ会集会（日時）6月20日（日）14時から（場所）高宮フランシスコ修道院在世会集会所（内容）アシジの聖フランシスコに倣って、福音に生きるために。ミサと学習（指導）戸村悦夫神父（問合せ先）☎092・843・5831 岩崎
◆グレゴリオ聖歌を歌う会（日時）6月22日（火）11時から（場所）聖クララ寮（内容）聖心賛歌（コル・ドウル・チエ）（問合せ先）☎096・3380・

◆虹の会（日時）7月17日（土）13時30分から（場所）カトリック大名町教会3階（内容）子どもを亡くした悲嘆の分かち合い（参加費）600円（問合せ）☎090・1162・6395 柴田須磨子
◆美野島司牧センターホームレス支援のための毎週火曜日10時半から炊き出し等への協力をお願いします。（問合せ先）☎092・431・1419 M・コース神父

北九州

◆北九州召命を共に祈る会（日時）6月10日（木）14時から17時（場所）カトリック小倉教会（内容）ミサ・ミーティング
◆熊本地区召命を共に祈る会（日時）6月17日（木）11時から（場所）カトリック健康教会（内容）ロザリオと話し合い（問合せ先）健康教会 ☎096・368・2825 青木悟神父
◆カトリック看護協会福岡支部の集まり（日時）7月11日（日）14時半（場所）イエズスの聖心病院（問合せ先）☎096・352・7181 Sr 竹内

熊本

◆佐賀祈りの集い（日時）7月3日（土）10時半～12時（場所）佐賀カトリック会館（内容）ミサと祈り（問合せ先）☎0952・30・8347 吉武
◆熊本地区召命を共に祈る会（日時）6月17日（木）11時から（場所）カトリック健康教会（内容）ロザリオと話し合い（問合せ先）健康教会 ☎096・368・2825 青木悟神父
◆カトリック看護協会福岡支部の集まり（日時）7月11日（日）14時半（場所）イエズスの聖心病院（問合せ先）☎096・352・7181 Sr 竹内

熊本

～ 宣教社会部 講演会 ～
私が望む教会と社会との関わり

講師：松浦悟郎司教（大阪教区協働司教）
日時：7月4日（日）14時～16時
場所：カテドラル大名町教会1階講堂
主催：福岡地区信徒協 宣教社会部
問合せ：目良 豊（090-6468-6844）
佐田一平（090-7164-9114）

◆小倉祈りの集い（日時）6月25日（金）13時半から15時（場所）カトリック小倉教会信徒会館2階（指導）ガブリエル神父（御受難修道会）（内容）「みことばを味わう」賛美と感謝の祈り（連絡先）☎090・3985・5209 松田裕子
◆佐賀祈りの集い（日時）7月3日（土）10時半～12時（場所）佐賀カトリック会館（内容）ミサと祈り（問合せ先）☎0952・30・8347 吉武
◆熊本地区召命を共に祈る会（日時）6月17日（木）11時から（場所）カトリック健康教会（内容）ロザリオと話し合い（問合せ先）健康教会 ☎096・368・2825 青木悟神父
◆カトリック看護協会福岡支部の集まり（日時）7月11日（日）14時半（場所）イエズスの聖心病院（問合せ先）☎096・352・7181 Sr 竹内

佐賀

広報の日記念講演会には、悪天候の中たくさんの方々が足を運んでくださった。今年マザーテレサ生誕100年ということで、教会外でも映画や写真展など様々な企画がなされている。
今年の「世界広報の日」の教皇メッセージは「司祭とデジタル世界における司牧、みことばに仕える新しいメディア」だった。教皇は5月11日から訪問したポルトガルで「教会の伝統的な宣教姿勢を変える必要がある」と語った。とカトリック新聞は報じている。マザーテレサの「名言」といわれるような言葉や行動は千葉監督を始め、多くの出版物、DVDなどの映像でも伝えられ、知っているつもりだったが身近に触れた人が語ることで、マザーに出会った気持ちにさせられた一日であった。
私たちも福音宣教師として、笑顔で周りの人々に真の喜び、真の幸せ、平和を運ぶ人になりたいものです。

編集後記

2011年度日本カトリック神学院入学について
各小教区主任司祭、信徒の皆様へ

2011年度入学願書受付締め切りは、神学院の準備の関係で6月末日となっています。入学を希望される方は各小教区の主任司祭にご相談ください。

また、各地区の召命部会の担当者、北九州地区：杉原神父（新田原教会）、福岡地区：竹内神父（糸島教会）、佐賀地区：スタン神父（唐津教会）、筑後地区：浦川神父（久留米教会）、熊本地区：牧山神父（崎津教会）がいますのでご相談ください。

COSMOS

スポーツ用品・OA・文具 コスモス

〒830-1224 三井郡大刀洗町鶴木67-3
TEL 0942-77-3199
代表者 ベトロ 平田 清

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院

医科・歯科臨床研修指定病院 総合周産期医療センター
地域医療支援病院 がん診療連携拠点病院
救命救急センター 地域災害拠点病院

＊入院基本料（一般病棟7:1）

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

一緒に働きませんか？
＝募集＝
医師・看護師・医療技術職

痛みの相談室
いくま整骨院

平日：9:30～12:00
14:30～20:00
土曜：9:30～15:00
休診：日曜・祝祭日

福岡市西区姪浜駅南1-7-12-2F
TEL 092-884-0134
ペトロ 生熊 公吉

サンパウロ福岡宣教センター

至聖なる イエズスの聖心…
〔6月・聖心の月、特設コーナーあり〕

1階 聖書・信心書・聖人伝・祈り関係・絵本・一般書等
2階 家庭祭壇・十字架・マリヤ・ご像・ご絵・CD・DVD等
営業：10:00～18:00＊定休日：日曜日・祭日＊駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 fax. 092-739-3930